

公益社団法人 地盤工学会関東支部



JGS Kanto

Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

幹事長就任のご挨拶 ー学会活動の意義と支部活動ー

関東支部幹事長 桑野玲子
東京大学生産技術研究所 教授

2022年4月の総会にて関東支部の幹事長に就任しました、桑野玲子と申します。関東支部の発展のために微力ながら力を尽くしていきたいと思っています。

東京では支部も本部も場所が変わらないのでこれまであまり活動の区別がついていなかったのですが（つける必要ありませんが）、支部活動の概況を改めて確認すると、多岐にわたる活動が展開されていることがわかりました。

私と地盤工学会の関わりを振り返ってみると、大学院生時代に先生から言われて研究発表会に参加するために地盤工学会に入り、卒業後ゼネコンに就職してしばらく止めていましたが、たまたま個人的な伝手で地盤工学会誌（当時は土と基礎）の編集委員に請われて再度入会し、その後英国の大学への留学を機に地盤工学の研究を仕事にするようになったため、以後ずっとお世話になり続けています。若い頃から今に至るまで、学会を通して、たくさんの人に出会い、様々な意見に触れる機会をいただいて、私は学会に育ててもらったと思っています。学会を通して、異なる世界を垣間見る窓のような、国際社会へ踏み出す扉のような役割でした。

2011~2012年に本部のダイバーシティ担当理事を務めたことがあり、学会活動の本質的意味や意義を考える機会がしばしばありました。持論としては、当たり前のことかもしれませんが、学会とは“場”であると思っています。人々が、情報の交換、共有、議論をする“場”を提供しているのが学会で、その“場”の効果と価値をさらに高めるために、“場”に参加する人々の多様性が不可欠である、という理屈を描いていました。今もその想いは変わりません。学会運営に関する活動で様々な方と知り合い、協力し、時には乗り越えなければならない苦労もあり、多くの友人が出来、私にとっての“場”がさら



に豊かになりました。技術情報や、研究のヒントを得るといような直接の利以上に、恩恵をいただきました。

2020 年から続くコロナ禍で、“場”の考え方が、物理的空間のみならずオンライン上の仮想空間も含むようになり大幅にアップデートされました。最初はごこちなかったものの、皆すぐにオンライン交流の便利さや効率性に気づき、また、仮想空間は物理的距離を凌駕するので、オンライン上では支部の壁は簡単に超えてしまいます。支部主催だからといって支部メンバーに限る必然性はほぼなくなりました。セミナーや講演会などは、オンライン開催することで会場の制約はなく、参加者も容易に集めることができます。そうすると、これからは、オンライン上で場を提供すれば、これまで通りあるいはこれまで以上に学会の役割を果たせる、という話になりかねませんが、そう単純な話ではありません。古参会員にとっては、既知の人たちとコミュニケーションを取るのにオンラインも有効かもしれませんが（実際には古い会員の方こそ対面交流を好むようです）、若い会員にとっては、新しい世界や人に触れて様々な刺激を受け取るのに対面交流が望ましいと思うからです。物理的距離が近い支部における対面活動は、これまでも今後も、会員を直接つなぐ貴重な機会であり、特に若手会員にとっては、かつての私がそう感じたように、様々な学会活動への窓であり扉になると思います。関東支部では会員相互の交流がより活発になるような“場”をこれからも提供し続けていきたいと思います。引き続き、ご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

特別講演会「土の締固め-古い課題の新たな展開-」開催報告

関東支部

元副幹事長 海野寿康（宇都宮大学）

地盤工学会関東支部では、例年、関東支部総会に合わせて特別講演会を実施している。令和3年度特別講演会「土の締固め-古い課題の新たな展開-」は、コロナ禍の中、龍岡文夫先生を講師として令和4年4月25日午後4時15分～午後5時45分まで、地盤工学会会館地階大会議室よりZoomウェビナーを用いたオンライン配信の講演会として実施した。

本講演会は「土構造物の要求性能の実現を目指した盛土締固め管理の合理化に関する研究委員会」の成果報告と書籍「土の締固め管理－現状・新たな展開・展望」の紹介を含む内容で、学会関東支部のホームページだけでなく、学会メーリングリストを用いて全国に広報したことにより、233名の聴講者（ウェビナー）に参加いただき、オンラインによる講演会ということで広く関東圏外からの参加者も多数あった。

参加者の職業構成は、業務や研究などで盛土を扱う土木系企業及び研究者、行政からの参加者はもとより、卒論や修士論文で盛土や締固めを研究題材にしている学生の参加もあり、地盤工学会の会員・非会員構成では、13%の非会員の参加があった。

講演内容は、下記のホームページリンクにおいて講演資料のPDFをダウンロードできるように配慮しているが、著名研究者（龍岡先生）が主催した研究委員会の最先端の研究資料や行政資料を元に講演を実施することを事前に広報していたため、「当日は、別の要件があり参加できないけれども資料が欲しい」あるいは「開催地が遠いため参加できないけれど資料が欲しい」などの要望が学会事務局等に寄せられており、全国的なニーズがあるテーマの講演会であったことがわかる。

講演会資料ダウンロード URL : https://jibankantou.jp/event/pdf/20220425handout_v3.pdf

前述の通り、今回、オンライン講演会として開催したため、地盤工学会関東支部外からの聴講が多く、対面で行っていた過去の特別講演会とはまた違った参加者構成であったが、盛況といえる状況であった。地盤工学会内で最大支部である関東支部は、多くの経験豊富な研究者や技術者が所属している。今後、このようなオンライン講演会を定期的開催して、広く地盤や土木に関する知識等の啓発を行い社会のニーズに応えることが特に関東支部に求められると予想される。

12月8日、9日には「土の締固め管理の合理化に関するシンポジウム」を開催する予定で、関東支部のみならず全国の会員各位からの参加を歓迎します。

行事 URL : <https://jibankantou.jp/event/20221208.html>



写真-1 龍岡先生のご講演の様子



写真-2 オンライン講演会会場の様子

NHK ブラタモリ「東京湾～海の玄関口・東京湾 原点は川にあり?～」出演報告



関東支部 歴史遺産の地盤工学研究に関する研究委員会
元部会長・正垣孝晴（元防衛大学校 教授/ Visiting Professor at
the Eurasian National University）

標記研究委員会の地盤構造物部会長として活動した内容に対して、2月7日にNHKのディレクターから問い合わせを受けた。数度の打合せを経て同番組の中で第二海堡の案内を担当させて頂くことになった。4月12日の収録を経て、5月14日（土）の19:30~20:15分の時間帯（NHK総合）で放映された。

第二海堡の全景を写真1に示す。右翼長270m、左翼長190m、開角130度、最大幅160m、平均幅65mである。写真2と写真3は、それぞれ北側と西端掩蔽壕である。明治から大正期までに東京湾口部に25の砲台と堡塁が設置された。第二海堡は、千葉県富津岬沖（水深10m）に、1889（明治22）年に人工島の建設が始まり1914（大正3）年（パナマ運河と同年）に竣工している。

敷地面積は41,300m²（東京ドームと同程度）であり、第一と第三海堡の、それぞれ1.8倍と1.2倍である。砲座・砲床と探照灯以外は、すべて地下に掩蔽され、これらは連絡通路で連結されている。大小合わせて30程の重火砲の中には、第二次世界大戦開戦翌年に2基の高射砲が増設され、世界に類がない厳然壮大な海堡であった。

このような番組で土木が中心になることが少ないとの思いから、以下の内容を紹介した。最初の4つが、我が国で最初にこの海堡で行なわれた。

波力を測り設計に用いた：アスファルトによる防水：プレローディング工法：平板載荷試験：掩蔽壕のコンクリート上の緩衝材としての土層（ロックシェッドなどの設計に繋がる）：20cmの土の巻き出し厚：コンクリートの周到な施工：場所と用途に応じて安山岩（小松石）と凝灰岩（房州石）を使い分けているなどである。

これらの技術は海岸構造物のみでなく、大規模な宅地造成、道路建設、斜面防災などに、今日そのまま受け継がれている。当時、アメリカ陸軍の求めに応じて海堡の建設技術が輸出され、それらの資料はアメリカ国立公文書記録管理局に保管されている。このような具体的な内容の紹介は放映に至らなかったが、タモリさんからの“貴重な土木遺産”との発言に安堵した。一方で、いくつかになっても勉強が続くとの思いもした。



写真1 第二海堡全景（国交省湾口事務所提供に加筆）



写真2 北側掩蔽壕（表面：焼過煉瓦）



写真3 西端掩蔽壕（壁：普通煉瓦，天井：コンクリート）

「既存杭の撤去・埋戻し方法とその影響を受ける新設杭の設計・施工」 新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会報告会

関東支部 新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会
幹事 青木 雅路 ((株)竹中工務店)

近年、旧構造物を撤去した後に新設構造物を施工するケースが増加しています。旧構造物の杭（既存杭）が新設する杭の施工やその性能に影響を及ぼすと考えられる場合、既存杭を撤去・埋戻しを行い新設杭の施工を行います。ところが、埋戻し部は、その周囲の原地盤と均一にはならず、新設杭の施工において偏心や傾斜などのトラブルに繋がることがあります。既存杭の撤去による地盤への影響が新設杭施工時のトラブルの主要な原因となっているにもかかわらず、その撤去と埋戻し方法については、明確な規定や指針類がなく、各事業者が独自に対処を行っているのが現状です。

本研究委員会（委員長：桑原文夫）では、現状の既存杭撤去・埋戻し方法、その埋戻し部の調査事例、新設杭施工時のトラブルとその対策事例について調査を行い、撤去・埋戻し方法と新設杭の設計・施工に関する留意事項としてまとめました。委員会報告は、書籍として発刊されました。

本報告会は、委員会報告として下記の日時・方法・プログラムで行われ（写真-1、写真-2 参照）、多数の参加者があったことから本課題への関心は高いと思われます。本書籍は本課題の参考書として十分役立つものと考えますが、更なる研究と成果の現業への展開が望まれると考えています。

- ・開催日時：2022 年 6 月 30 日 13:00～16:50
- ・開催場所：Zoom ウェビナーによるオンラインリアルタイム動画配信
（講師は、地盤工学会地下大会議室に集まって、大会議室から発信）
- ・参加人数：259 名
- ・プログラムと講師：司会 森 利弘（熊谷組）

【プログラム】		
13:00-13:10	主旨説明	桑原文夫委員長（パイルフォーラム）
13:10-13:40	委員会の活動概要	青木雅路 幹事（竹中工務店）
13:40-14:00	既存杭の撤去埋戻し地盤に関する調査	原 智紀 委員（西松建設）
14:00-14:40	既存杭撤去・埋戻し方法	三反畑勇 委員（安藤ハザマ）
14:40-14:50	休 憩	
14:50-15:30	既存杭撤去後の埋戻し地盤の特性	古垣内靖 委員（東急建設）
15:30-16:00	既存杭撤去孔に近接する新設杭の施工（既製コンクリート杭）	細田光美 委員（ジャパンパイル）
16:00-16:30	既存杭撤去孔に近接する新設杭の施工（場所打ちコンクリート杭）	宮本和徹 委員（東洋テクノ）
16:30-16:50	既存杭撤去孔に近接する新設杭の設計	小林治男 委員（大成建設）

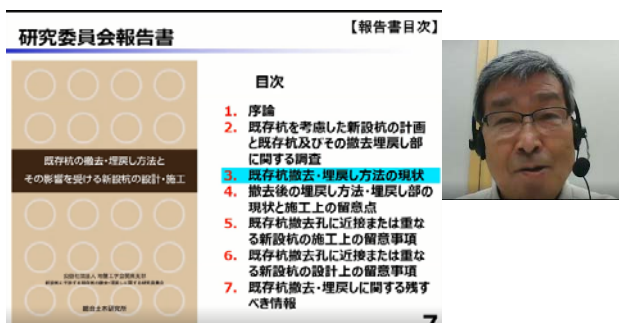


写真-1 主旨説明をする桑原委員長

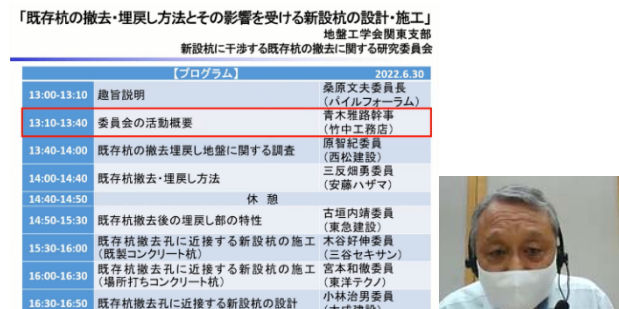


写真-2 委員会活動概要を説明する青木幹事

～昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和に語り継ぐ～ 第3回 ジオテク語りべ会 開催報告

関東支部 会員サービスグループ

幹事 小林優起 (川崎地質(株))

幹事 荒井郁岳 ((株) ジオデザイン)

幹事 山口恵美 (関東学院大学)

学生幹事 荒木大空 (日本大学)

令和4年7月6日に、『～昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和に語り継ぐ～ 第3回 ジオテク語りべ会』を開催いたしました。本企画は、多くの知識と経験を持った先輩方から今後地盤工学会を支える若い世代に、その経験・知見を語り継いでいただこうという趣旨で2019年度より実施しており、今回で3回目の開催となりました。

今回は、中央大学名誉教授の國生剛治先生を講師にお迎えし、これまでの研究人生において「研究者なら人とは違うことをやりたい！」との思いで独自の視点で進めてこられた研究と到達点についてお話いただきました。國生先生のご講演の前には、講師紹介として、先生の最後の学生でいらっしゃった鹿島建設(株)・笹岡里衣様より先生の略歴や研究室での様子などを紹介していただきました。

國生先生のご講演は、電力中央研究所在籍期間に実施された、せん断土槽による液状化実験(おそらく当時世界初)、原子力発電所の立地拡大に向けた砂礫の凍結サンプリング・三軸試験や、良配合砂礫におけるN値-相対密度の関係式等の算出についてのお話から始まり、大学へ移動後の砂礫地盤の液状化強度や、細粒分が液状化強度に与える影響、造成緩斜面盛土の液状化メカニズムの解明、エネルギーによる液状化評価法の開発に関するお話、最後には再生可能エネルギー開発として「低緯度太平洋メガソーラー帆走筏プロジェクト」に関するお話と、非常に盛り沢山な内容でお話いただきました。この他にも、今回だけでは時間がとても足りないくらい、多くの興味深いお話を紹介していただきました。

今回の語りべ会は、第2回に引き続きZoomによるオンライン形式で開催し、当日は関東以外の方や非会員の方も含め、約100名の方にご参加いただきました。参加者の皆様からは、國生先生のお話が分かりやすかった、先生の研究視点や発想のポイントが聞けて勉強になった、など好評を頂きました。

本講演会の最後には、関東支部長の東京理科大学・菊池喜昭先生よりご挨拶を頂きました。その中でもお話がありましたが、オンライン開催により、特に遠方の方にも参加していただけることは非常に良いことだと感じております。一方で、今回のような非常に刺激になるお話を直接伺える機会が減っているため、早くコロナ禍が落ち着き、対面で開催できるようになることを心より願っております。



写真-1 國生先生ご講演の様子

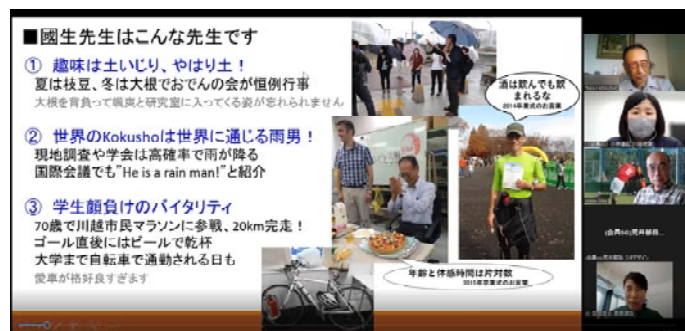


写真-2 講師紹介のひとこま

足尾銅山関連施設見学会 開催報告

関東支部 栃木県グループ

幹事 大野孝二（飛島建設(株)）

1. はじめに 栃木県日光市足尾町にある足尾銅山は、1610年(慶長15年)に江戸幕府の御用銅山となったのち、1877年(明治10年)古河財閥の創始者である古河市兵衛が買収・経営に着手してからは、大鉱脈の発見等により産銅量が日本一になるなど1973年(昭和48年)に閉山するまで多くの銅を産出してきた。その間、歴代の経営者らは西洋の最先端技術の導入、選鉱所や製錬所、水力発電所の建設により銅山の近代化を図るとともに、沈殿池(浄水場)やたい積場、煙害防止のための脱硫塔などを設置して鉱毒被害の拡大抑制にも努めた。現在老朽化した施設は解体・撤去されたが、その中多くの関連施設が文化財や史跡として保存されている。栃木県グループでは令和4(2022)年7月22日(金)に地盤工学的な視点から価値のある施設を中心に見学会を実施した。参加人数は、栃木県グループの関係者10人であった(写真-1)。

2. 見学会内容の紹介 当日見学した施設は、見学順に古河足尾歴史館、通洞変電所、宇都野たい積場、小滝坑跡、本山動力所、古河橋、足尾環境学習センター、古河掛水倶楽部であった。古河足尾歴史館では長井名誉館長に館内を案内していただいた。歴史館は、関連施設の模型、採掘に使用したさく岩機、当時の写真などの展示をもとに足尾銅山の歴史を紹介している。加えてこの地で採掘された銅鉱石やその他鉱物も展示されており足尾の地質を知るうえでも参考となる施設であり、短時間での見学では見切れないほどの多くの展示物があった。宇都野たい積場は鉱山施設特有の土木構造物で、採掘された鉱物を製錬する際に生じる溶融物質(足尾では主に銅を製錬する際に生じる鉱さい)を貯めるための堰堤の役割がある。現在は耐震性評価に基づいた補強が施されている。小滝坑は本山坑、通洞坑とならぶ足尾銅山の代表的な坑道のひとつで、現在は坑口のみが見学できる。これらの3つの坑道は鉱脈を有する備前楯山(標高1,273m)の地中深くでつながっており坑道のスケールの大きさが伺える。本山動力所はさく岩機の動力源である圧縮空気を送るためのコンプレッサー室で、内部には当時としては国内最大の出力を誇る大型コンプレッサー(写真-2)が展示されており、最新技術を導入して採掘を行っていたことが良くわかる施設のひとつである。その他の関連施設については紙面の都合で割愛するがいずれも興味深い施設ばかりであった。これらの施設は古河機械金属(株)で管理されているものがほとんどであり、見学に際して非公開施設への訪問など足尾事業所の山崎所長には大変お世話になった。

3. おわりに 今回の見学会は、コロナ禍ではあったが足尾銅山の歴史を垣間見る非常に有意義な見学会となり、秋に実施予定の参加対象枠を広げた見学会に向けて良い検討材料が得られた。



写真-1 古河足尾歴史館での集合写真



写真-2 本山動力所内の大型コンプレッサー

2022 年度地盤工学会関東支部賞候補募集要項

公益社団法人 地盤工学会関東支部

地盤工学会関東支部では、「地盤工学会関東支部技術賞」「地盤工学会関東支部功績賞」および「関東支部発表会優秀発表賞」の3つの賞を設け表彰する事により、その業績を讃え、合わせて関東支部活動の活性化を目指しております。このうち、「地盤工学会関東支部技術賞」と「地盤工学会関東支部功績賞」の候補者の募集を行います。これらの賞は、支部会員の地盤工学的観点から優れた工事の業績、技術の開発と実用化、創造性等に優れた学術成果、地盤工学関係技術者の育成や技術力向上、学会のPRなどへの業績や社会的地位向上に貢献を行った活動に対し表彰し、その成果を讃えるものです。以下の募集要項に基づき、奮ってご応募頂きますようお願い申し上げます。なお、「関東支部発表会優秀発表賞」については、関東支部発表会実行委員会の規程に基づき、別途表彰を行います。

受賞対象：関東地域に関係する次のいずれかに該当する業績を対象として、個人（複数可）または団体に授与する。

但し、関東支部あるいは地盤工学会の他支部において表彰を受けた業績については応募することはできない。

関東支部賞の2つ以上の分野に同時に同じ（もしくは同等と判断される）業績で応募することはできない。

地盤工学会関東支部技術賞：

- ①地盤工学的観点から優れた工事の計画、調査、設計、施工、計測および維持管理等に関する業績等
- ②活用性、汎用性に優れた技術の開発および実用化等
- ③創造性、特殊性を有する学術的に優れた研究論文および研究報告等

地盤工学会関東支部功績賞：

- ①地盤工学関係技術者の育成および技術力向上に顕著な貢献をしたと認められる業績等
- ②地盤工学のPRおよび社会的地位向上に貢献をしたと認められる業績等
- ③地盤工学会会員として関東支部の活動に永年従事し、顕著な貢献をしたと認められる業績等

対象者資格：受賞対象者の資格は、特に設けない。ただし、地盤工学会関東支部功績賞の③については、支部会員（正会員、特別会員）、および支部会員を代表とする機関あるいはグループとする。ここで、支部会員を代表とする機関とは支部会員が代表を務める機関とする。また、特別会員は特別会員である機関の下部機関についても応募対象者とする。なお、特別会員に属する非会員の個人を代表とするグループについては応募対象者とししない。さらに、ここでの会員とは応募時点において会員であり、かつ推薦締切日において引き続き会員であるものとする。

応募の形式：推薦とします。自薦・他薦を問いませんが、推薦者は関東支部の正会員（関東支部表彰委員を除く）、または特別会員であること。ただし、関東支部が主催する委員会活動および行事などは応募の対象外です。

審 査：地盤工学会関東支部の表彰委員会により審査を実施し、受賞者を決定します。必要に応じてヒアリングを実施します。

発 表：受賞決定の場合には、直接該当者に通知します。

表 彰：2023 年 4 月の関東支部通常総会において行い、受賞者には賞状・副賞を贈ります。

推 薦 受 付：2022 年 9 月 9 日（金）より 2022 年 11 月 25 日（金）まで。郵送の場合、当日消印のあるものを有効とします。

提 出 先：封筒の表に、「地盤工学会関東支部賞○○○○○賞候補推薦」と記入のうえ、下記へ直接持参するか、あるいは書留で郵送してください。

〒112-0011 東京都文京区千石 4-38-2JGS 会館内

公益社団法人 地盤工学会関東支部

電話 03-3946-8670 FAX 03-3946-8699

※ 推薦書は地盤工学会関東支部の website よりダウンロードください。

<https://jibankantou.jp/event/2022kantouaward.html>

（提出資料）

1.推薦書 1 部

2.業績を示す資料（該当する業績ごとに以下に示す資料）10 部

地盤工学会関東支部技術賞①，②：該当業績を記した論文または業績の内容が分かる説明資料やパンフレット

地盤工学会関東支部技術賞③：当該研究論文もしくは研究報告，1 編

地盤工学会関東支部功績賞①，②：業績リスト（出典明示）と代表的資料のコピー3 編

地盤工学会関東支部功績賞③：地盤工学会における活動履歴と業績リスト（出典明示）

2021 年度 地盤工学会関東支部賞技術賞 受賞コメント

高性能小口径杭工法「ハイスペックマイクロパイル工法」
粕谷 悠紀・高橋 真一・山本 彰 ((株)大林組)

この度、提案した高性能小口径杭工法「ハイスペックマイクロパイル工法」に対して、2021 年度地盤工学会関東支部賞に選定いただき、誠にありがとうございました。

ハイスペックマイクロパイル工法は、既設構造物基礎の耐震補強工法であり、狭隘地や空頭制限下でも施工可能な技術です。実大載荷試験により必要な鉛直支持力と水平抵抗が得られることや、弱部となり易い継手部も鋼管本体と同等以上の強度や剛性を満足することを確認しています。

技術審査証明の取得後、土木 7 現場 16 か所への適用実績があります。今後増加が見込まれるインフラのリニューアル工事等への適用に向けて、引き続き安全かつ高品質な杭の構築に努めていきます。

2020 年度 地盤工学会関東支部賞技術賞 受賞コメント

「石垣耐震補強工法（グリグリッド）」
川本 卓人・森田 晃司・粕谷 悠紀 ((株)大林組)

この度、「石垣耐震補強工法（グリグリッド）」に対して 2020 年度地盤工学会関東支部技術賞をいただいた。

本技術は、石垣背面を構成する粒径の大きい栗石層（最大粒径 300mm 程度）に適した新型ジオグリッドである。栗石の粒径に合わせて目合いの変更が可能で、栗石層の噛み合わせを阻害しないため、栗石層本来のロッキング効果を活かした補強が可能である。従来のジオグリッドが柔軟なシート材であるのに対し、柔軟性と剛性を併せ持ったシート材であり、剛性により地震時の栗石の流動を拘束して、石垣の耐震性を高めることができる。

【行事報告】

日 程	行事名称	場 所
2022.04.25	特別講演会「土の締固め-古い課題の新たな展開-	オンライン
2022.05.18 2022.05.25	共催行事： 第 2 回技術者講座「最近の防災・減災技術」	茨城県産業会館 とオンラインの 併用
2022.06.30	「既存杭の撤去・埋戻し方法とその影響を受ける新設杭の設計・施工」新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会報告会	オンライン
2022.07.02	共催行事：（一社）地域国土強靱化研究所「設立 2 周年フォーラム」	会場とオンライン 併用
2022.07.06	会員サービスグループ：～ 昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和に語り継ぐ～第 3 回「ジオテク語りべ会」	オンライン
2022.07.22	栃木県グループ：「足尾銅山見会」	足尾銅山
2022.08.30	後援行事：（一財）災害科学研究所「切羽前方探査の最前線および DX 時代の地山評価と利活用」講演会	会場とオンライン 併用
2022.09.27	後援行事（一財）災害科学研究所「インフラ分野における DXー変革に向けてー」講演会	会場とオンライン 併用
2022.09.30	令和 4 年度関東支部千葉県グループ「蔵玉トンネル拡幅工事見学会」	千葉県君津市
2022.10.08	第 15 回ソイルストラクチャーコンテスト「～5×10！目標強度を狙え！～	オンライン

ゴシックの行事報告を本号でご紹介しています。また、これまでの行事報告については関東支部のホームページでご覧下さい。

【行事予定】

日 時	行事名称	場 所
2022.10.20 10.21	後援行事：（一社）全国建設発生土リサイクル協会「土サミット 2022」	東京都 オンライン
2022.11.02	第 3 回若手技術者を対象とした意見交換セミナー	東京大学生産 技術研究所
2022.11.05	後援行事：令和 4 年度“彩の国”市民科学オープンフォーラム「危機の時代Ⅱーしなやかな社会を目指してー」	埼玉大学
2022.11.15	共催行事：「令和 4 年度 千葉県建設技術協会」講習会	千葉県教育会 館
2022.11.24 11.25	「第 19 回地盤工学会関東支部発表会（GeoKanto2022）」	オンライン
2022.11.25	昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和に語り継ぐ「第 4 回ジオテク語りべ会」	オンライン
2022.12.01	後援行事：令和 4 年度「アワード工法」技術講習会	東京都 オンライン
2022.12.08 12.09	「土の締固め管理の合理化に関するシンポジウム」	オンライン

行事予定の最新情報については関東支部のホームページでご確認ください。

関東支部では、メーリングリストにご登録頂いた会員の皆様に行事案内を随時お知らせしております。

登録をご希望の方はお名前、会員番号、メールアドレスを明記の上、

E-mail：kantouevent@jiban.or.jp または FAX：03-3946-8699 までお申し込み下さい。

（崔 瑛：企画総務グループ 幹事）

発行 公益社団法人 地盤工学会関東支部

〒112-0011 東京都文京区千石 4 丁目 38 番 2 号 JGS 会館内 TEL 03-3946-8670 E-mail：jgskantou@jiban.or.jp

URL: <https://jibankantou.jp>